

税理士の ひとりごと

No. 154

離婚後の思わぬ心配

税理士 齋藤明

来月、離婚することになりました。いわゆる熟年離婚ってやつですね。我が家では以前からずっと妻がご機嫌ナメで、家での会話はほとんどないような状態が何年も続いておりました。それでも「まあ、熟年夫婦なんてこんなものなのかな?」と思って、特にそれの特異なこととは思わず受け入れていたのです。ところがある日突然、妻から「別れたい?」と聞かれ、その時に私は瞬時に「うん、別れたい」と答えてしまったのです。

その翌日、居間の机の上に「財産分与の話をお願いします」と書かれた置き手紙があったので、私は直ちに財産目録の作成に着手しました。完成後それを妻に提示し、それを基に少しでも擦り合わせをして、あつという間に財産分与の話もまとまってしまいました。あまりに呆気なく人生の一大事とも言うべき離婚話が決着してしまい、自分でもビックリなのです。

面白いことに、「今度離婚することになった」という話を周囲の人に話すと、男性と女性とでは反応がまったく異なるのです。男性の場合は、たいてい「ふーん、そうなんだ」って程度のアッサリした反応があるだけなのですが、女性の場合は「えー、奥さん大丈夫?」と、(私の友人で妻とはまったく面識もないような人でさえ)私の心配ではなく妻の心配をするのです。それを私は「なんで?」と不思議に思っていたのですが、後になって少しだけその理由がわかってきたのです。

私がちよくちよくネットで離婚に関する検索をするからでしょうか、ネットをしていると結構頻繁に離婚に関するネット記事が目に入るようになりました。ある日たまたま見かけたネット記事によりますと、結婚10年以上の夫婦の5組に1組が熟年離婚をしたいと考えているというらしいのです。

その一方で、熟年離婚したいけどで

気になってさらに他のデータを読み進めると、当初私が思っていた離婚のイメージとは少々異なる意外な結果が見て取れました。たとえば、離婚後の生活の満足度についての問いに対しては、「安定して生活できている」という回答が48・1%、「なんとか生活できている」が31・6%と、概ね80%の離婚経験者は無事に生活できているような

しかし冷静になって、離婚後の自分の生活というものを考えてみると、どう自分で頑張ってもどうしようもない大きな問題を抱えていることにハタと気が付きました。それは、離婚後私が引き取るようになった2匹の愛犬（私が親権ならぬ犬権を主張したのです）。特にそのうちの1匹は間もなく17歳になろうかという老犬で、既に白内障でほとんど目が見えていないうえに、最近では家のそこらじゅうで粗相をして



【近況】顧問先の奥様が「怖くくらいに未来のことがよく見える」と評判の霊視？占い？の人を紹介してくれました。あまりの人氣に予約が全く取れない人なのですが、その奥様のご自身の予約枠を譲ってくださるというので行ってきました。機会があれば今度その時のことを書きますね。

87